

令和2年4月23日

「受動喫煙」が「睡眠の質を低下させる」ことで 「睡眠時の歯ぎしり」を誘発する可能性を世界で初めて解明

◆発表のポイント

- ・睡眠時の歯ぎしりは、歯の痛みや顎関節症を引き起こし、日常生活に支障をきたすことがあります。また、かみ合わせを回復する治療の障害にもなります。
- ・本研究により若い女性は受動喫煙により睡眠の質が低下して、睡眠時の歯ぎしりを引き起こす可能性のあることを明らかにしました。
- ・喫煙が、周囲の人（例：家族）の睡眠に与える悪影響を知らせることができると期待されます。

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科予防歯科学分野の外山直樹医員・森田学教授、同大保健管理センターの岩崎良章教授の共同研究グループは、若い女性における受動喫煙、睡眠の質および睡眠時の歯ぎしりの関連を世界で初めて明らかにしました。本研究結果は、受動喫煙が睡眠に影響し、口腔の健康を損なう可能性を広く知らせることが期待されます。本研究は、2019年9月12日にオランダの学術誌「*Sleep Medicine*」のオンライン版に掲載されました。

◆研究者からのひとこと

2020年4月より望まない受動喫煙を防止するため、公共の場において原則屋内禁煙となりました。今後は家庭における受動喫煙が問題になると思います。この研究を通して、家庭における喫煙のリスクについて考えるきっかけになれば幸いです。



外山医員

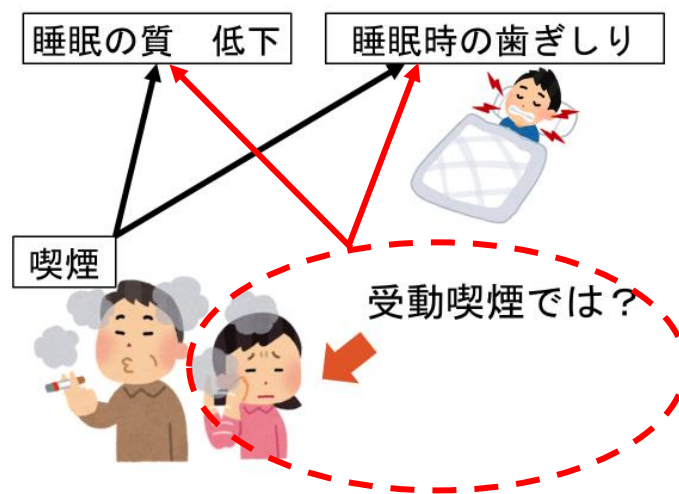


PRESS RELEASE

■発表内容

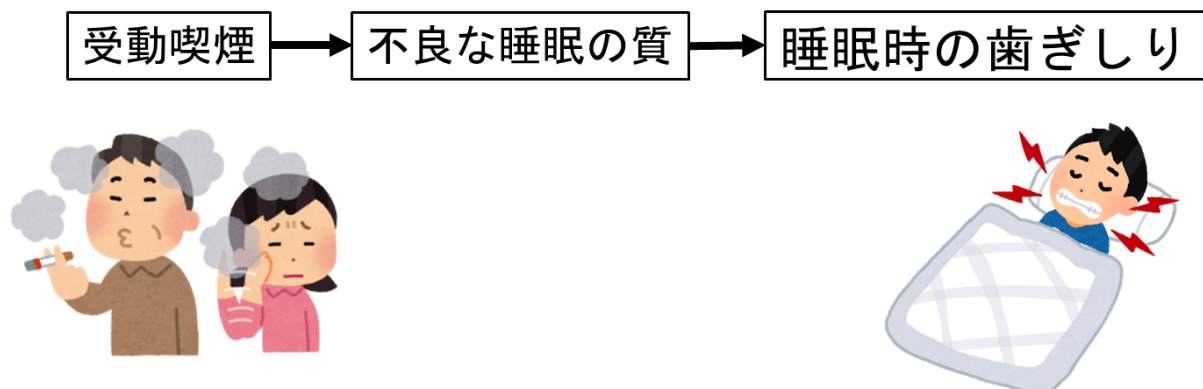
<現状>

睡眠時の歯ぎしりは痛みや顎関節症を引き起こします。また、かみ合わせを回復する治療の障害にもなります。睡眠時の歯ぎしりのリスク因子には性別、年齢、飲酒、逆流性食道炎、ドーパミン作動性障害などが報告されています。また、喫煙も睡眠時の歯ぎしりのリスク因子であり、睡眠の質の低下を引き起こします。喫煙の影響は喫煙者本人だけでなく、受動喫煙による周囲への影響も考えられます。しかし、受動喫煙、睡眠の質および睡眠時の歯ぎしりの関連は明らかではありませんでした。



<研究成果の内容>

研究グループは、岡山大学新入生2144人に対して歯科健診およびアンケート調査を行いました。喫煙者、習慣的な飲酒をしている者、アンケート未記入者および20歳以上の者を除いた1781人を分析対象者として、「受動喫煙」、「睡眠の質」および「睡眠時の歯ぎしり」の関連性について分析しました。男女別に分析した結果、女子大学生において、「受動喫煙」が「睡眠の質を低下させる」ことで「睡眠時の歯ぎしり」を誘発する可能性があることが明らかになりました。一方、男子大学生では関連がありませんでした。





PRESS RELEASE

<社会的な意義>

喫煙は喫煙者自身だけでなく、周囲の人々の健康に対しても悪影響を及ぼします。本研究の結果は受動喫煙による睡眠への影響、さらには口腔内へも影響を与える可能性を明らかにしたものであり、社会的・公衆衛生的意義があると考えられます。

■論文情報

論文名 : Associations between sleep bruxism, sleep quality, and exposure to secondhand smoke in Japanese young adults: a cross-sectional study

掲載紙 : *Sleep Medicine*

著者 : Naoki Toyama, Daisuke Ekuni, Ayano Taniguchi-Tabata, Toshiki Yoneda, Kota Kataoka, Aya Yokoi, Yoko Uchida, Daiki Fukuhara, Hikari Saho, Islam Md Monirul, Nanami Sawada, Yukiho Nakashima, Yoshiaki Iwasaki, Manabu Morita

D O I : 10.1016/j.sleep.2019.09.003.

U R L : <https://www.sciencedirect.com/science/article/abs/pii/S1389945719303120?via%3Dihub>

<お問い合わせ>

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科

予防歯科学分野 教授 森田 学

(電話番号) 086-235-6712

(FAX) 086-235-6714



岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY



岡山大学は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。